

春から夏に見られる砂茶碗(タマガイ科の卵囊)について

水産研究開発センター環境養殖部

5月から8月位にかけて、松島湾、万石浦周辺から、砂茶碗(タマガイ科の卵囊)の発見情報が多く寄せられ、アサリ漁場で猛威をふるっている「サキグロタマツメタ」の卵ではないかと、心配する声が上がっていました。調査の結果、サキグロタマツメタではなく、在来のタマガイ科である「ツメタガイ」の卵囊であることが判明しましたので、見分け方などについてお知らせします。



【ツメタガイとその卵囊】

2005年8月に、水産研究開発センター前の砂浜で採集したツメタガイとその卵囊の写真です。水深50cm～2m位のところに、たくさんのツメタガイと卵囊(砂茶碗)がみられました。

【サキグロタマツメタとツメタガイの卵囊の比較】

最も大きな違いは、サキグロタマツメタの繁殖期が秋の9～10月であるのに対し、ツメタガイの繁殖期は春から夏であることです。また、サキグロタマツメタの卵囊は干潟の干出するところにも多く見られますが、ツメタガイでは干出しない、より深いところに多いようです。

卵囊の形を見ると、親貝の大きさがツメタガイの方が大きいので、それを反映してかツメタガイの卵囊の方が大きい場合が多いです。また、上部のつぼまった部分の高さが、ツメタガイの卵囊の方が比較的高くなっています。さらによくみると、サキグロタマツメタの卵囊は中囊(「サキグロタマツメタの初期発生」参照)構造を持っているので、表面がぼこぼこしているのに対し、ツメタガイでは卵囊の表面が平滑です。また、卵囊を飼育していくとサキグロタマツメタは稚貝が直接はい出てくるのに対し、ツメタガイは浮遊幼生(ベリジャー幼生)が孵出してくるという大きな違いがあります。

サキグロタマツメタ

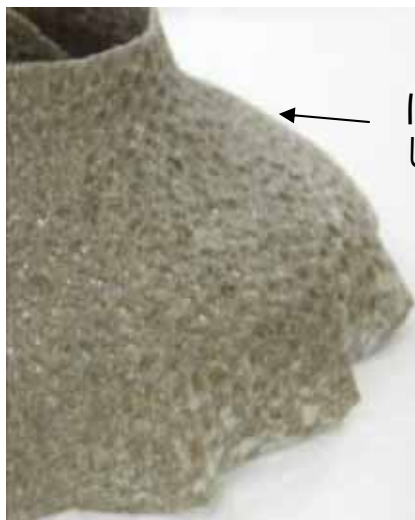
ツメタガイ

繁殖期
秋

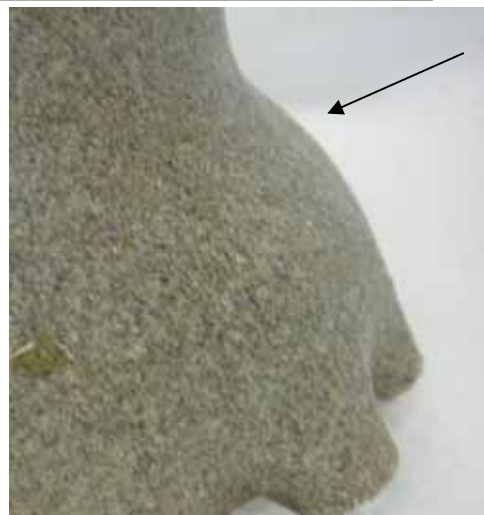


この部分が、
ツメタガイの
方が高い

繁殖期
春～夏



ぼこぼこ
している



なめらか



孵出直前の稚貝



孵出したベリジャー幼生

ツメタガイは、昔から宮城の海に生息していた貝であり、極端な影響はないものと思われませんが、サキグロタマツメタと同じ二枚貝を食べる肉食性なので、あまり多いと思われる場合は、食用もできますので採取した方がよいでしょう。

参考 (静岡県水産試験場浜名湖分場 のHP)

<http://www11.ocn.ne.jp/~hamanako/fukyu/tumetagai.htm>